

## 外客攻略のヒント

齊藤敬一郎 JNTO北京事務所長

vol.121

## 北京五輪で期待高まる訪日旅行

3月13日、パラリンピックの閉会式が行われ、北京冬季五輪の競技日程がすべて終了した。日本政府観光局(JNTO)北京事務所では、オリンピック閉会式の翌日から中国市場向け公式SNSを通じ、冬季スポーツに対する意識の変化などを調査した。

北京五輪は昨年の東京大会に続き、選手や関係者の移動・滞在を一定の空間内に限定し、外部と接触させないバブル方式で行われた。中国はゼロコロナ戦略を継続しており、バブル内外の接触は厳しく管理された。通常は国内線が離発着している北京首都空港ターミナル3も、大会期間中はオリンピック関係者専用として提供され、一般利用者の立ち入りが禁止された(これまでターミナル3を使用していた国内線はターミナル2へ変更された)。空港から宿泊施設、競技会場等への移動も専用の車両のみで行われた。選手だけでなく大会の運営を支えるスタッフもバブル内に入った場合は外へ出ることはできず、外へ出るには14日間の隔離が必要とされた。

観戦チケットは一般販売せず、対象者を限定して配布された。北京に住む外国人にもその機会があり、中国人民対外友好協会が80カ国300人を招待した。日本人に関しては中国日本商会と北京日本倶楽部(旧北京日本人会)に対して招待があり、数人が現地観戦することができた。18歳以上でワクチンを3回接種していることなどが観戦の条件だった。

北京では、外国籍の居住者に対するワクチン接種は21年4月に開始され、3回目の接種は2回目の接種後6カ月を過ぎてからとなっている。しかしながら、接種が開始されたからといってすぐに接種したという外国人は少数派で、身近にいる日本人が接種したか、副反応はどうだったかなどを聞きながら徐々に接種する人が増加していったという状況に

あった。このため、3回接種完了という条件を満たすことができず、観戦を断念した人が少なくなかったようである。

## 多数のホテルが封鎖管理に

北京五輪と市民生活は完全に分断されていたが、スキージャンプ競技等の会場となった張家口スキー場以外はすべて北京市内にあった。昨年9月、北京で開催された国際冬季運動博覧会(WWSE2021)にJNTO北京事務所も出展したが、同博覧会はスノーボード競技等の会場となった市西部の首鋼園で行われた(首鋼園は2010年まで運用されていた製鉄所の跡地)。1月下旬から、市内の幹線道路に大会関係者用の車両のみが走行できる専用車線が設けられ、大会関連施設の間を往復する専用車両を見る機会も増えた。また、市内には大会マスコットやロゴの入った装飾、中国で人気のある選手が登場する商品広告が目につくようになるなど、大会を感じる機会は多かった。

市内には大会取材する報道関係者や開会式に参加する外国政府要人の宿泊するホテルが多数存在した。これらのホテルはバブル内となるため、封鎖管理が行われ、外部との接触が厳しく管理された。施設の入り口には警察官が配置され、外国政府要人が宿泊する施設では、それに加えて武装警察官も配置されていた。

JNTO北京事務所の隣の外資系ホテルも報道関係者の宿泊施設として封鎖管理された。敷地内に



大会関係施設に指定されたホテルは封鎖管理された

はチェーン店のコーヒーショップ、レストランがあったが、封鎖管理エリア内となったため、大会期間中は休業せざるを得なかったとのことである。また、市内にある一部の日系ホテルも報道関係者が宿泊する施設として封鎖管理された。これらのホテルに勤務する日本人スタッフも大会期間中はバブル内にいるため自宅に帰ることが許されず、12月末に会った時に「3カ月後に会いましょう」と挨拶を交わしたほどである。

大会期間中、北京市内のスキー場へ行くことができた。市内に10カ所以上あるスキー場のうち、21年の同時期にも訪問したスキー場へ行ったが、リフトに並ぶ人の列が倍以上の長さとなっていたこと、入場時に一部のレンタル道具がすでに貸し出し済みで提供できないと案内されたことなど、北京五輪の効果なのかは不明だが、来訪者が大幅に増加しており、大変驚いた。

## 冬季スポーツへの関心上昇

中国政府は北京五輪の開催を前に、22年までに中国国内の冬季スポーツ参加者を3億人にする目標を掲げた。中国旅游研究院が今年1月に発表した報告では、16~17年シーズンに1億7000万人だった冬季スポーツ参加者が21~22年シーズンには3億500万人になると見込んでいる。また、25年までには5億5000万人、消費額1兆500億元(21~22年シーズンは推計3233億元)になると予測しており、中国の冬季スポーツ市場はさらに拡大すると期待されている。

JNTO北京事務所はオリンピック閉会式翌日の2月21日から1週間、中国市場向け公式SNS(ウィー

## ●北京オリンピック観戦後の冬季スポーツに対する興味関心の変化



## ●コロナ収束後に海外で冬季スポーツを試みたいか?



チャット)を通じて冬季スポーツに対する意識の変化などを調査し、3041件の回答を得た。その結果を紹介したい。

まず、「北京冬季オリンピックを観戦した」のは92.2%、うち7.9%は現地観戦の機会も得ていた。観戦者に対して「観戦後の冬季スポーツに対する興味関心の変化」を、また回答者全員に対して「コロナ収束後に海外で冬季スポーツを試みたいか」を聞いたところ、図のような結果となった。「海外で冬季スポーツを試みたい」との回答は調査前の予想より大変多く、冬季スポーツを目的とした訪日旅行の増加にさらに期待を持つことのできる結果となった。

また、海外で冬季スポーツを試みたいと「思わない」と回答した者に対し、その理由を複数回答で聞いたところ、「他のことを優先したい」(62.1%)が最多で、「けがした場合の対応に対する不安」(33.1%)、「言葉が通じるか不安」(16.6%)の順に上位を占めた。このうち、他のことを優先したいとの回答は、日本には魅力的なコンテンツが多いと感じている層と解釈することもできる。このような人々はすでに訪日リピーターとなっているか、あるいは将来リピーターになる可能性があるのではないだろうか。冬季スポーツをするために、さらにもう一度訪日の機会を増やしてもらえようプロモーションをしていきたい。

北京五輪は中国人の冬季スポーツへの興味関心を高め、かつ海外で冬季スポーツを試みたいという意欲を高めることに効果があったと評価して差し支えないだろう。コロナ収束後の中国人訪日旅行者数の早期回復とさらなる拡大に向けてしっかりと取り組んでいきたい。

(次回は5月23日号に掲載します)